



# 消防学校 ニュース



令和2年 12月号

## 消防職員専科教育警防科 (第15期)

令和2年11月10日(火)～11月26日(木)の約1か月間、専科教育警防科を実施し、県内15消防本部(局)から32人が参加しました。

近年における建築様式等の変化に伴い、建物火災時には屋内進入を強いられることが増加しており、消防職員の負傷や殉職という最悪の事故も連続して発生しております。各隊員が不完全な知識や技術をもって活動することほど危険なことはありません。

このことから、小隊を統制する小隊長クラスの火災対応能力の向上が急務であると考え、前年度に引き続き、火災業務に特化したカリキュラム構成として実施しました。校外での実科訓練など御協力いただいた方々には大変お世話になりました。心より御礼申し上げます。

(担当教官コメント)

消火活動に係る戦術、装備を含めた機械器具は時代の移り変わりとともに変遷を重ね、消防隊にも日々進歩が求められています。講義や訓練が進むにつれ、的確にサイズアップ

(建築様式・環境・煙・酸素・熱・炎・生活様式等の状況評価)をして迅速な人命救助や状況に応じた効果的な消火活動を実施することができました。消防活動は決して1人で行うことが出来ません。各個人が同じレベルのスキルを持つことで火災対応能力は向上します。帰任した修了生の皆さんには、警防科で習得した知識や技術を、世代を超え多くの職員に対しフィードバックしていただくことを期待します。

教務課主査 丸子 修平(富士山南東消防本部より派遣)

濃煙熱気を  
肌で体感



状況に応じた放水、注水を選択せよ!

# 想定訓練実施中



訓練後は必ずフィードバック



Reading Smoke





# 米太平洋基地 キャンプ富士で校外研修



フラッシュオーバーの前兆現象であるロールオーバーを確認



情報共有が重要



# Search & Rescue



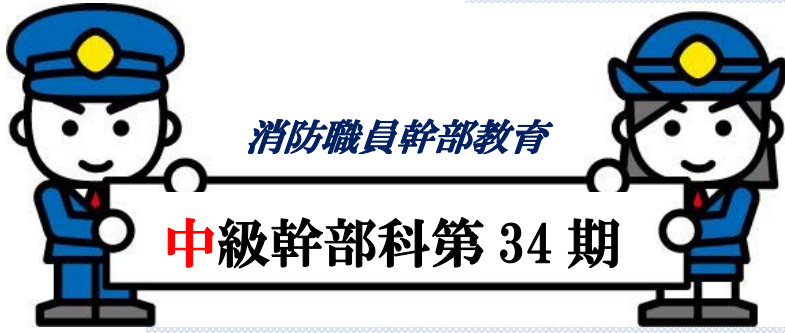
取材対応

He who moves not forward goes backward.

前進をしていない人間は、後退をしているのだ。



※集合写真撮影時はマスクを離脱しています



消防職員幹部教育

中級幹部科第34期



18人の中堅幹部職員が入校

令和2年11月11日(水)～11月20日(金)の8日間、幹部教育中級幹部科を実施し、県内14消防本部(局)から消防司令補以上の18人が入校しました。

この中級幹部科は組織の中核を担う幹部として責任、立場を理解するとともに組織管理、社会動向等について見識を深め、災害時等的確な指揮及び対応ができる事を目的に行うもので、多岐にわたる集中的な教育です。



「現場指揮概論」

大隊長経験者から経験談も！



「事例研究」

学生発表後に班で話し合い更に班発表



「通常点検・警防科合同」

中級幹部科として節度がすばらしい

申し訳ございません



「報道対応」

記者会見模擬演習



「事例研究」

学生発表後に班で話し合い更に班発表

久々の鉄ボンベは重い



「実火災体験型訓練」

ホットトレーニング

消防団と連携



「大隊長指揮訓練Ⅰ」

大規模災害シミュレーション



「大隊長指揮訓練Ⅱ」

火災対応シミュレーション

8日間という短い日数でしたが、幹部としての心構え、消防行政の現状と課題の把握及び指揮隊長としての責務と行動の習得を目的とするカリキュラムを構成しました。

座学や実科訓練とともに真撃に取り組み、多くの「気づき」を得たように感じます。是非、幹部職員として所属に還元し組織運営に携わっていただきたいと思います。

今後の益々の御活躍を期待しています。

教務課主査 早川 淳(磐田市消防本部から派遣)

# 火災想定指揮連携訓練

令和2年11月19日（木）中級幹部科と警防科が合同で訓練を実施しました。

この訓練は、火災発生事案での出場から火災鎮圧までの指揮要領、部隊運用及び活動要領を実施検証することで、災害発生時の対応能力の向上を図ることを目的に実施しました。また、今年度から学生主体の訓練とし、「訓練統括者」「現示班評価者」「安全管理班評価者」の新しい役割りを増やし、訓練の企画運営能力の習得及び向上を主眼に置きました。

訓練運営班打合せ



訓練アドバイザーの皆様



災害現場では、各隊が役割を認識し、連携した組織的な活動が重要になります。災害状況が変化していく中で、情報共有や活動要領の難しさを学べたと感じます。両科の学生には、訓練で習得したものを各所属での訓練に活かしていただけたいと思います。今後もこのような訓練を継続していきたいと思ひます。

中級幹部科担当 教務課主査 早川 淳（磐田市消防本部から派遣）

警防科担当 教務課主査 丸子修平（富士山南東消防本部から派遣）

## 消防職員特別教育女性消防吏員講習(第3回)

令和2年11月4日(水)～11月5日(木)の2日間、特別教育女性消防吏員講習を実施し、県内11消防本部(局)から13人が参加しました。県内各消防本部(局)では計画的な女性消防吏員の採用をはじめ、女性消防吏員の研修機会の拡大、女性専用施設の整備など様々な取組が進められています。

今年度も引き続き、女性消防吏員としてのキャリア形成を考え、職域拡大等を目的とした女性消防吏員講習(第3回)を開催しました。

(担当教官コメント)

講習終了後のアンケートには、講習日数が少ない、実科訓練の時間を増やしてほしいという意見があり、入校生のもっと学びたい、もっと意見交換をしたいという意識が表れていると思いました。

女性職員が少ない所属が多いので、他の所属の女性職員と交流できる場として、とても有用な講習となっていることが実感できました。

教務課 主査 飯塚 幸代(御殿場市・小山町広域行政組合消防本部から派遣)



来年度の訓練も充実  
して開催する予定!  
乞う御期待だよ!



## 消防団員特別教育女性消防団員研修会(第3回)

令和2年11月15日(日)に女性消防団員研修会を開催し、県内の消防団から31人の女性消防団員が参加しました。この研修会では実科訓練で避難器具及び屋内消火栓の取扱いとパッキングを行い、消防団員の心構えと災害時に必要な知識・技術の習得、住民の防災指導等、今後の消防団活動に役立ててもらうことを目的に実施しました。

(担当教官コメント)

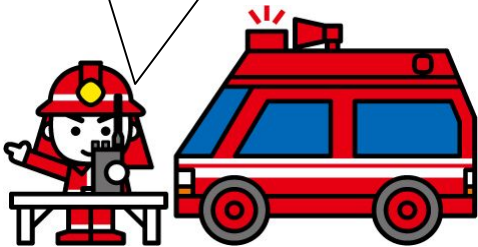
今回は、消防団等充実強化アドバイザーの古村様(元長野県消防協会会長、元辰野町消防団長)に、女性消防団員の存在意義や活動事例について御講義をいただきました。その中で、女性消防団員としてどのような活動ができるのか方向性のヒントを得るとともに、何ができるのか発信していくことの大切さを認識することができたと思います。

この研修会を通して、消防団員の方々の防災に関する知識習得に対する意欲と、消防団員である自覚と誇りを持って活動していることが伝わってきました。

教務課 主査 飯塚 幸代(御殿場市・小山町広域行政組合消防本部から派遣)

# 消防大学校幹部科（第63期）

消大レポート！



令和2年10月6日、消防大学校（東京都調布市）における総合教育幹部科（第63期）に入校し約2か月間の教育訓練を受けました。新型コロナウイルスによる影響が長引く中で、教育訓練及び入寮生活に多少制約がありましたが、全国から集まった52名の仲間とともに無事に卒業することができました。



【指揮シミュレーション訓練】



【多数傷病者対応訓練】

指揮訓練では大規模火災現場、多数傷病者対応、緊急消防援助隊の応援・受援体制等、多種多様な災害をシミュレーション形式や実践的な訓練で繰り返し行うことで、大規模災害全体を理解するとともに、指揮者としての判断力・決断力等、指揮能力の向上を図ることができました。



【報道対応演習】



【実火災体験型訓練（危険物火災）】



幹部科では、消防に関する高度な知識及び技術を総合的に学び、多くの新しい気づきを得ることができました。この研修で学んだことを消防学校教育や所属に還元するとともに、今後の消防人生に活かしていきたいと思えます。

静岡県消防学校 教務課 主査 中村一二三（静岡市消防局から派遣）

## 消防団員幹部教育指揮幹部科現場指揮課程(第7期)

令和2年11月7日(土)～11月8日(日)に指揮幹部科現場指揮課程を開催し、県内の消防団から39人の消防団員が参加しました。災害現場等においてリーダーシップを発揮し、小隊、中隊の指揮を執り、自身と仲間の安全を確保しながら、任務を的確に遂行できるよう、座学、実科訓練等を実施しました。

(担当教官コメント)

コロナ禍の状況下、感染防止対策の徹底を図り、当課程を実施しました。座学では静岡県消防協会の松浦会長、静岡大学の牛山教授を招き御講義をいただきました。訓練では大規模災害対応指揮訓練、HUG、救助・救命訓練を実施しました。土日にもかかわらず、参加された団員の皆様方は積極的に訓練等に取り組んでいました。ここで学んだことを地元消防団活動で役立ててください!

教務課 主査 竹ノ内 創(駿東伊豆消防本部から派遣)



## 塩崎ぜっ校長

### ワンチョット(チョイネタ)コーナー今月のつぶやき

12月某日午後、校長室にて

令和2年も終わろうとしている。朝夕に限らず北風がとても冷たい。

今年を振り返ると、1月の下旬から「新型コロナウイルス」の感染が始まり、すぐにそれが世界中に拡大し、国民にも計り知れないほどの大きな不安や悲しみを与えた。1年近く経とうとしている今も、出口はまったく見えない状況にある。世の中の動きを見ると、今年は、式典やイベント、競技会等の多くが中止や延期となり、季節感を感じる事がとても難しかった。春、夏、秋、そして冬と、もちろん過ぎてきたはきたが、1年足らず前のことを思い出すことが難しい。加齢による忘却や喪失もあろうが、季節ごと、その時々々の区切りとなる出来事がなかったため、十分に思い出せないのである。そんな年は、今までで記憶がない。そういう意味においても、「忘れられない」年になった。

わが消防学校の今年は、と言うと、「コロナ禍」の中、前年度1月から3月までの教育訓練、今年度4月からの教育訓練も、先週終了した幹部教育「上級幹部科」、現在入校中の専科教育「予防査察・危険物科」を含め、なんとか実施することができている。教官はじめ、全職員が、細心の注意を払ってくれたことはもちろんであるが、関係する皆様の御理解と御協力のお陰である。心より感謝申し上げる。

学校内の様子に目を移すと、教官は、訓練実施や準備、関係機関との調整、資料調製、装備や機器の点検や手入れ等、それぞれ自らの業務に勤しんでいる。総務課の職員も、年末で、総務、会計、管財業務等で頑張ってくれている。皆、とても忙しそうである。

新しい年、令和3年は、もうすぐそこまで来ている。来年は、コロナ禍も早くに収束し、穏やかで平和な年であってほしい。

「きっといい年でありますように」と唯々願うばかりである。



編集・発行/ 静岡県消防学校 〒424-0211 静岡市清水区谷津町1-577-1  
☎ 054-369-1190 FAX: 054-369-1197 E-mail: [fd-school-somu@pref.shizuoka.lg.jp](mailto:fd-school-somu@pref.shizuoka.lg.jp)

★「消防学校ニュース」は静岡県ホームページの消防学校の案内・紹介のところに掲載しています。過去の分を含め、どうぞ御覧ください。

静岡県消防学校

検索

